

令和4年度 第3回三島市地域公共交通網形成協議会 議事録

- 日時 : 令和4年12月20日(火) 14時～16時30分
- 場所 : 富士山南東消防本部3階消防センター
- 出席者 : 委員26名(3名欠席)
- 事務局 : 都市計画課(石田課長、八木課長補佐、野知技術主幹、岡本主任技師、仁科副主任)  
地域協働・安全課(岩崎課長、小糸主幹、植田主任、鶴澤主事)
- 公開・非公開の別 : 公開
- 傍聴人数 : 0人
- 内容 : 1 開会  
2 会長あいさつ  
3 議事  
(1) 次期計画の基本方針や目標の検討について  
(2) 令和5年度三島市自主運行バスの運行について  
(3) 単独継続困難申し出路線について  
(4) 地域間幹線系統路線の事業評価に関する市の対応について  
4 報告事項  
(1) 公共交通に関する市民アンケートの実施結果について  
(2) 三島市バス停オーナー事業について  
5 閉会
- 審議結果 : 議案第1号 原案どおり承認  
議案第2号 原案どおり承認  
議案第3号 原案どおり承認  
議案第4号 原案どおり承認

質疑応答・意見

【議案第1号】次期計画の基本方針や目標の検討について

委員 A

次期計画の基本方針として「地域に適合した新たなモビリティの形成」を入れたのが良い。70代の方々もスマートフォンを使用している人が増えており、次期計画予定期間の6年間でさらにスマートフォンを使用する人の割合が増えるだろう。時代にあったモビリティサービスについて積極的に取り入れることを念頭に、次期計画を策定してほしい。

委員 B

交通系 IC カードの利用率がアップすることでバスの乗降時がスムーズになり、渋滞の解消への影響が大きいというデータがある。

運転手の確保が課題となっており、バスでは減便、タクシーでは人手不足で廃業せざるをえ

ない事業者がでている。交通事業者と歩み寄り、意思疎通を図っていく必要がある。運転手の確保、供給体制があつてこそ、目標に向かっていけるので、丁寧に対応してほしい。また、今後、市としてコンパクトなまちづくりに重きを置くのか、あるいは利用ニーズにあわせた交通網を維持するのかを考えなければならない。

**【議案第 2 号】 令和 5 年度三島市自主運行バスの運行について**

委員 C

新たなバス停となる場所は安全上問題ないと確認はしているか。

事務局

三島警察署に確認をして、安全な場所ということで確認がとれている。

委員 D

玉沢線は、病院によるルートに復活しているが、それは収支の問題か。

事務局

収支の問題というより、地元町内会から総合病院に通うための足が全くなくなってしまうて困っているという声による。そこで地元町内会と話をさせていただき、朝と昼に運行する便とした。

委員 B

バス停を復活させるとのことだが、公平性と公共性の考えをしっかりとたなければならない。将来同じように色々な路線で

**【議案第 3 号】 単独継続困難申し出路線について**

委員 D

バスの各路線で交通系 IC カードを適用しているが分析にも使用されているか。

交通事業者

今回の資料で示した数字は、交通系 IC カードの利用実績ではなく、バス入口の上のセンサーが通過者をカウントした数字。今後、交通系 IC カードのシステムを活用していければと思うが、まだ、現在のシステムではできない。

委員 D

次期計画の中に ICT 活用ということがでているので、こういう部分でもリンクしてくるともっと効率的な運用ができるようになるのではないかと思う。

**【議案第 4 号】 地域間幹線系統路線の事業評価に関する市の対応について**

質疑応答、意見無し

**【報告事項 1】 公共交通に関する市民アンケートの実施結果について**

委員 D

アンケート結果の(6)公共交通の費用負担と今後の取組みについて、公共交通を日常利用している人とそうでない人と分けた分析結果はあるか。

事務局

資料のページ数の都合でここでは提示していないが、調査結果はある。参考までに申し上げますと、公共交通を日常利用している人で、「利用者数が減少しても市の費用負担を増やし、公共交通サービスを向上すべき」と答えた人と「利用者数減少による収入減の一部を市が費用負担し、公共交通サービスを現状維持すべき」と答えた人はあわせて64%だった。また、日常利用していない人は、あわせて55%だった。利用している人、利用していない人の約60%は公費負担により公共交通サービスを維持、もしくは向上すべきと答えた。

**【報告事項2】** 三島市バス停オーナー事業について  
質疑応答、意見無し